

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(1)職務の理解		
到達目標	研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
修了時の評価ポイント	なし		
指導の視点及び展開例	<p>○研修課程全体(130時間)の構成と各研修項目(10項目)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにする。</p> <p>○学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるよう素地の形成を促す。</p> <p>○視聴覚教材を使用し、介護職が働く現場や仕事の内容をできるかぎり具体的に理解させる。</p> <p>○視聴覚教材を使用し、グループワークを行い介護職員のはたらく現場の理解を深める。</p>		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
①多様なサービスの理解	3	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス(居宅・施設) ・介護保険外サービス ・多様なサービスと介護職の仕事 ・キャリアパスの資格取得要件 ・事業所等におけるOJT等の講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機材(DVD)を鑑賞 ・必要に応じて施設見学 <p>介護保険制度も含めて施設概要を説明する</p> <p>演習:参考例</p> <p>受講生の自宅近郊にある施設は各施設の種類のいずれに分類されるかを調べて一覧表に書き加える。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容の理解。 ・居宅・施設の実際のサービスの提供現場の具体的様子(現場経験のある講師の体験談等)により理解させ ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携。 	<p>(演習)1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機材(DVD)等鑑賞しグループディスカッションを行う。 ・介護職が働く現場や仕事の内容の説明 <p>(実習)1</p> <p>サービス提供現場の具体的なイメージができるよう現場見学を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指定施設を2時間程度見学する。(別紙 指定実習先) <p>(演習)2</p> <p>グループに分かれ受講生の介護体験を披露しあい、お互いの「介護観」に対する理解を深める。</p> <p>実際の介護体験を中心に、これから学んでいく研修課程全体の研修科目内容がどのように関連していく必要になるかを、グループごとに図を作成しまとめる。</p>
合計時間	6		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻』 第1章「職務の理解」 介護職員初任者研修 補助教材DVD		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援		
指導の目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点、及び、やってはいけない行動の例を理解する。		
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。 ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
①人間と尊厳を支える介護	4	<ul style="list-style-type: none"> ①人権の尊厳と保持・個人としての尊厳 ②エンパワメントの視点・「役割」の実践 ・尊厳のある暮らし・プライバシーの保持 ・介護分野におけるICF ・QOLの考え方 ・生活の質 ・ノーマライゼーションの理解と考え方 ・身体拘束の理解 ・虐待防止禁止 ・高齢者の擁護者支援 ・個人の権利を守る制度 ・個人を守る制度の概略(個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業) <p>上記に事項について、人権擁護の点も踏まえながら講義する。</p>	(演習) ・尊厳の保持、QOL ・ノーマライゼーション ・自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開についてグループワークやディスカッションを行う
②自立に向けた介護	5	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 ・残存能力の活用(自立支援のための介護) ・動機欲求 ・意欲を高める支援 ・個別性、個別ケア ・重度化防止、介護予防、介護予防の考え方 ・専門職として求められる「自立」・「自律」について、人権擁護の観点から講義 ・人権とは何か ・人権への取り組み事例 ・尊厳の概念 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を示し、利用者や家族の要望をそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・必要に応じて、事例検討やディスカッションを行う。
合計時間	9		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻』第2章「介護における尊厳の保持・自立支援」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(3)介護の基本		
指導の目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。		
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 ・生活支援の場では会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
①介護職の役割、専門性と他職種との連携	2	<ul style="list-style-type: none"> ○介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括の方向性 ○介護の専門性 ・自立した生活を支える為の援助 ・介護に関わる職種 ・チームケアの重要性 ・根拠のある介護 ・事業所内のチーム ・他職種からなるチーム ・医療行為と医療ケア 	(演習) ・チームケアの重要性、役割分担などグループディスカッションを行う。
②介護職の職業倫理	1	<ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守 ・利用者の個人の尊厳と介入 ・日本介護福祉士会の職業倫理 ・介護の理念 ・介護職として社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重 	職業倫理に関わる講師の体験談を紹介した後に、受講生が各々の自分の体験による倫理観の変化について省察して文章化する。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・事故防止、安全対策 ・緊急時に必要な知識と対応方法 ・感染症対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてディスカッションを行い理解を深める。 ・必要に応じ感染対策の具体的な実技を行う。
④介護職の安全	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理 ・介護職に起こりやすい健康障害 ・腰痛予防 ・感染症の予防 ・ストレスマネジメント ・ボディメカニクス 	(実技) ・腰痛予防体操やボディメカニクスについて実際に講師の指示のもとで受講者が実際に体験する。
合計時間	6		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻』 第3章「介護の基本」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携		
指導の目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。		
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解しサービスや地域支援の役割について列挙できる。 ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源と保険料負担の大枠について列挙できる。 例：税が財源の半分であること、利用者負担割合 ・ケアマネジメントの意義について概説できサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
①介護保険制度	3	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景と目的・動向 ・介護保険制度の仕組みと基礎的理解 ・ケアマネジメント ・予防給付 ・地域包括支援センターの役割 ・介護認定の手順 ・サービス事業者の指定 ・制度を支える財源 ・その他の制度の概要 ・医療保険制度の概要 ・年金保険制度の概要 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ介護保険の理念についてグループディスカッションを行う。
②医療と連携とリハビリテーション	3	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術、全身観察、体温・脈拍・血圧・呼吸の測定による観察の方法、他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供の方法 ・訪問看護 ・リハビリテーション医療の意義と役割 ・リハビリテーション医療の過程 ・訪問・通所・地域リハビリテーション 	
③障がい者総合支援制度およびその他の制度	3	<ul style="list-style-type: none"> ・制度創設の理念・背景と目的 我が国の法律で定める障害のとらえ方 ・障害者(児)福祉の背景と動向 ・個人の権利を守る制度の概要 ・障害者雇用の就労状況 	
合計時間	9		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻 第4章「介護・福祉サービスの理解と連携」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術		
指導の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識して、コミュニケーションを取ることが専門職に求められてい認識する。この認識を踏まえ、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解できる。 		
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義と目的、役割 ・コミュニケーションの手段と技法 ・利用者・家族への対応の基礎知識 ・利用者・家族への対応の実際 ・利用者の状況・状態に応じた対応 	<p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族への対応の基礎知識 ・利用者・家族への対応の実際 ・利用者の状況・状態に応じた対応についてロールプレイングを行い理解を深める。 <p>受講者をグループに分け、利用者・家族・介護職のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	<ul style="list-style-type: none"> ・記録による情報の共有化 ・報告・連絡・相談 ・コミュニケーションを促す環境 ・ケアカンファレンス ・サービス担当者会議 ・コミュニケーションを促す環境 ・会議の種類と会議に臨む姿勢 ・事例研究・事例報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職・利用者 ・事例検討 ・サービス担当者会議などの業務上のコミュニケーション ・受講者間でロールプレイングを行う
合計時間	6		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻』第5章「介護におけるコミュニケーション技術」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(6) 老化の理解		
指導の目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。		
修了時の評価ポイント	<p>・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。</p> <p>例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等</p> <p>・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。</p> <p>例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等</p>		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と心身の変化の特徴 ・人格と尊厳、老いの価値 ・性役割と老年期の性 ・心身の機能の変化と日常生活への影響 <p>老化に伴う心身の機能の変化、身体的変化、心理的变化</p>	介護における生理的側面の知識を身につけることの必要性についてグループディスカッションを行う。
② 高齢者と健康	3	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病(老年症候群)と生活上の留意点(外科系) 認知機能を高める、尿失禁の改善 ・高齢者に多い病気と生活上の留意点 生活習慣病、脳神経系の病気 循環器系の病気、呼吸器の病気、 肝臓・胆道系の病気 腎・泌尿器の病気、精神の病気 骨や関節の病気、眼と耳の病気 皮膚の病気 	症状の小さな変化にどのように気づけるか、グループディスカッションを行う。
合計時間	6		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻』第6章「老化の理解」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科 目 名	(7) 認知症の理解		
指導の目標	介護において認知症を理解することの必要性を認識し、認知症の利用者を介護する際の判断の基準となる原則を理解している。		
修了時の 評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。 ・認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。 ・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。 		
項 目 名	時間	講 義 内 容	演 習 ・ 実 習 の 実 施 方 法
①認知症を取り巻く状況	2	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念 ・認知症ケアの視点 ・パーソンセンタードケア 	
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念と原因疾患・病態 ・認知症の治療、認知症についての最近の話題 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理 ・認知症と間違えられやすい症状 ・物忘れとの違い 	
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状、行動・心理症状 ・利用者への対応 ・不適切ケア 生活環境での改善 	症状の小さな変化にどのように気づけるか、グループディスカッションを行う。
④家族への支援	1	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減(レスパイトケア) 	・家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについてグループディスカッションを行う。
合 計 時 間	6		
備 考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻』第6章「老化の理解」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(8)障がいの理解		
指導の目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的考え方のほか、介護における基本的な考え方について理解している。		
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
①障がいの基礎的理解	0.5	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の基本理念 ・障害の概念と国際生活機能分類(ICF) 	
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴かわり支援等の基礎的知識	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害・視覚障害・聴覚障害 ・精神障害・統合失調症・躁うつ病等 ・神経症性障害(神経症) ・アルコール依存症 ・知的障害・知的障害・ダウン症 ・肢体不自由(身体障害) ・高次脳機能障害 ・音声・言語障害・咀嚼機能障害 	
③家族の心理、かわり支援の理解	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護する家族が遭遇するストレス ・障害の理解と受容支援 ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減(レスパイトケア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについてグループディスカッションを行う。
合計時間	3		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第1巻』第8章「障害の理解」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術 I		
指導の目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。 ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
基本知識の学習 ①介護の基本的な考え方	3	<ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づいた介護 ・法的根拠に基づく介護 	
基本知識の学習 ②介護に関するこころのしくみ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 	
基本知識の学習 ③介護に関するからだのしくみ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チェックとバイタルサイン ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・ボディメカニクス 	(実技) バイタル測定
生活支援技術の講義・演習 ④生活と家事	4	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と家事 ・家事援助の基礎知識と生活支援 	(演習) 生活支援に関する実技を実施する。
⑤快適な居住環境整備と介護	6	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・介護保険による住宅改修 ・福祉用具に関する基礎知識 ・福祉用具に関するリスクマネジメント 	(演習) 利用者の状況に合わせ介護機器の選び方を学ぶ。
合計時間	22		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第2巻』 第1～2章「介護に関する基礎的理解」「自立に向けた介護の展開」		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術 II		
指導の目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができ ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	<ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識 □整容の支援技術 	身だしなみ、整容、着替えなどの実技を行う。
⑦移動・移乗に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護	9	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗のための用具と活用方法 ・負担の少ない移動・移乗と支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗の介護、移動の介護に関連する演習・実技 ・移乗・移動のための用具と活用方法などの実技・演習
⑧食事の関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備と用具の活用方法 ・楽しい食事を阻害する要因と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 	・食事に介護に関する演習・実技
⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴と清潔保持に関する基礎知識 ・入浴と整容の用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害する要因と支援方法 	・入浴の介護、清保持に関連する演習・実技を行う
⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因と支援方法 	
⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因と支援方法 	体位・姿勢交換など実技
⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識 ・苦痛の少ない死への支援と他職種との連携 ・臨終が近づいたときの兆候 	終末期の心理、介護に関する考え方などのディスカッション
⑬介護過程の基礎的理解	5	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の基礎的理解 ・科学的思考と介護過程 ・介護過程の展開に必要な構成要素 	複数の事例を活用して個人ワーク・グループワークを行う。 総合演習の計画作成
⑭総合生活支援技術演習	6	<ul style="list-style-type: none"> ・総合生活支援技術演習 力が発揮できない要因の分析→ ・事例は、認知症と片麻痺の2例を扱う 	(事例による展開) 適切な支援技術の検討→技術演習評価→支援技術の課題の順に2時間程度で検討(ディスカッション)を進める
合計時間	53		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第2巻』第2～3章		

介護職員初任者研修 シラバス

医療法人回生会 大西ケア・アカデミー

科目名	(10) 振り返り		
指導の目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
指導視点	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅、施設の何れかの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。 ・最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ・介護職の仕事内容や働く現場、事業者等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。(視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等) 		
項目名	時間	講義内容	演習・実習の実施方法
①振り返り	3	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性、チームアプローチの重要性等 	<p>今まで、学習したことを科目ごとに振り返り、総復習を行う。</p> <p>講師との質疑応答を行って、理解不十分な点の見直しと学習を行い、さらに取得を深めていくよう指導する。</p> <p>総合演習の評価や実習、添削での総括を行う。</p> <p>特に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を示して実習や授業での気づきを結びつける。</p> <p>グループディスカッションを通して今後のキャリア形成について見通しを</p>
②就業への備えと研修終了後における実例	1	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介す 	<p>今後、介護職を続けていく上で継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような「事業所における事例を紹介する。</p>
合計時間	4		
備考	中央法出版『介護職員初任者研修テキスト 第2巻』 第 章「振り返り」		